



かけはし





祝おう！旧正月

i-ビル 3階 シビックテラス・市民活動支援センター 2月10日

今年の旧正月にあたる2月10日、i-ビルのシビックテラスにて旧正月イベントが開かれました。旧正月とは、旧暦における正月のことで、現在でも中国、韓国、ベトナムなど一部のアジアの地域を中心に盛大に祝われています。今回のイベントでは、来場者はクラフト体験、遊び体験、民族衣装体験、旧正月に関するワークショップなど、多種多様なコーナーを周り、旧正月を祝いました。

まず、クラフトコーナーでは、^{せんし}剪紙と呼ばれる中国の切り絵やアジア組み紐、ベトナムランタンづくりや春聯（※1）を体験しました。また、遊び体験コーナーでは、投壺と呼ばれる中国の矢投げや、^{ユンノリ}ユンノリ（※2）や^{コンギ}コンギ（※3）といった韓国のテーブルゲームで遊びました。そして、民族衣装体験コーナーでは、中国、韓国、ベトナムの伝統的な衣装に着替えて、旧正月をテーマにした飾り付けを背景に写真を撮りました。さ

らに、シビックテラスと隣接する市民活動支援センターの中では、ファシ138によるワークショップが行われ、参加者はアジア各国での「あけましておめでとう」の言い方や、世界の旧正月について学びました。

来場者は、アジアのゲームを楽しんだり、複雑なアジア組み紐に頑張って挑戦したりしていました。私も組み紐に挑戦しましたが、結び目の細かさのあまり終始苦戦しました。また、今回のイベントは、日本人のみならず、中国や韓国、ベトナム出身の人もたくさん来場していました。会場ではそれぞれの国の食品も販売され、自分の国の食品を購入したり、同じ国の人たちや違う国の人たちと交流を深めたりする姿が見られました。それぞれの出身地域は中国、韓国、ベトナム、日本などと異なりますが、旧正月のイベントを通して、お互いの文化への理解がさらに深まりました。（うっちー）

※1 春聯 赤色の紙に縁起の良い言葉を墨で書いたもの

※2 ユンノリ 韓国に伝わるすごろくのような遊び

※3 コンギ 韓国に伝わるおはじきのような遊び道具



国際交流ふれあいウォーキング

大野極楽寺公園 10月14日

今年の国際交流ふれあいウォーキングは日本人が30名、外国人が7名参加しました。日本人はファミリーで参加する人も多く、交流が始まる前からみなさんがこの日を楽しみにしていた様子がわかりました。外国人は市内在住の人だけでなく、ホームステイ中の人や旅行中の人も参加しました。

参加者はいくつかのグループに別れてウォーキングを楽しみました。私は息子と一緒に韓国から語学を勉強に来たという男性とその友人、そして2人のお子



さんを連れた家族と一緒に出発しました。ウォーキングルートではボランティアの方が各国にちなんだクイズを準備して待っているの、子どもたちも興味津々。漢字にちなんだクイズが出た時には、韓国のハングル文字の話に繋がって盛り上がりま

した。ゴールではご褒美の外国おやつを食べながら、さらに交流を深めました。参加者全員が楽しい雰囲気の中、見慣れないおやつに挑戦して想像とは違う食感や味を楽しんでいました。



最後は外国のアクティビティ、Duck Duck Goose(※1)とSimon Says(※2)を大人も子どもも一緒になって遊びました。限られた時間の中でたくさんの国際交流ができ、みなさんとても充実した様子でした。

(きなこ)

※1 Duck Duck Goose…日本の「ハンカチ落とし」のような遊び

※2 Simon Says…日本の「命令ゲーム」のような遊び

国際交流ふれあいボウリング

アソビックス尾西 1月14日

市内在住の日本人と外国人総勢40名が参加して、10チームでスコアを競いました。参加者にはボウリングが初めてという人や10年ぶりという人もおり、緊張と期待が入り混じった気持ちのなか、ゲームスタートとなりました。

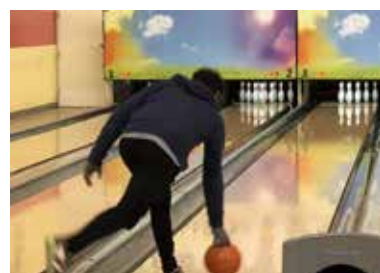
ボウリングは全部で2ゲームしました。スコアが上位のチームは表彰&景品があるということで、みなさん楽しみながらも真剣にボールを投げていました。そして、お互いの順番が



回ってくる間にたくさん交流しようと会話を積極的に楽しんでいました。年齢や国籍に関係なく、ストライクが出た時にはハイタッチして喜び、ピンが残ってしまった時も「おいしい!もう1回あるよ!」と応援し合う姿はとても感動的で、あらためてスポーツの良さを実感しました。

最後に優勝チームと個人で上位5名の方が

表彰され、記念写真を撮って締めくくりとなりました。この機会でないとなかなか出会えない国の人と一緒にボウリングができて、みなさん笑顔でいっぱいでした。



(きなこ)



異文化料理セミナー 「Buon Appetito!トレビーズの郷土料理を作ってみよう！」

神山公民館 料理実習室 11月18日

今回の異文化料理セミナーではトレビーズの郷土料理であるザエティ(とうもろこし粉のビスケット)とリージ・エ・ビージ(グリーンピースのリゾット)を作りました。一宮市の友好都市であるトレビーズ市はヴェネチアの北にあり、人口約8万人で運河の流れている街です。まず、イタリアのトレビーズ県出身の国際交流員キアラさんからトレビーズ市について説明があり、その後、料理を行いました。キアラさんが作り方を説明し、その後参加者が5人ずつのグループに分かれて協力して料理をしました。

ザエティはとうもろこし粉と小麦粉が生地のベースのビスケットで、昔は小麦粉がとても高価だったことからとうもろこし粉を使い、パンの代わりとして食べられていましたが、今はパンと一緒に食べるとのことです。レモンの表面の皮だけを使うことで苦みのない仕上がりになるとのこと。ひと口目にレモンの香りがふわっと広がり、レーズンのフルーティな酸味が感じられます。生地はサクツとした外側で中は少し柔らかく、最後はつぶつぶとした面白い食感です。

リージ・エ・ビージはグリーンピースがたっぷりに入った、コンソメで炊いたリゾットです。この日は冷凍のグリーンピースを使って料理しましたが、本場トレビーズのグリーンピースはもっと大きいのだそうです。グリーンピースの旬は春で、祝いのリゾットとして振る舞われた歴史があるそうですが、今は旬の季節以外もよく食

べられています。

作り終わったら、イタリアの食卓について説明がありました。イタリアでは日本のようにすべて同時に食卓に配膳される文化はなく、前菜、プリモ、セコンド、付け合わせ、チーズ、デザート、コーヒーが順番に出てきます。キアラさんの「Mangiamo! (食べましょう!)」の合図で、作った料理をみんなで味わいながら食べました。

「トレビーズではリゾットはスプーンではなくフォークで食べます」とキアラさんから説明があり、参加者から「えー！」と驚きの声が上がりました。トレビーズ風にフォークでいただいている参加者も多数いました。異文化料理セミナーを通して、イタリアの食文化を楽しく学ぶことができました。

(いけちゃん)

Buon Appetito ...ブオンアッペティート。
イタリア語で「良い食事を!」という意味。



日本語の教え方セミナー

神山公民館 大会議室 12月1日/8日



日本語の教え方セミナーは二回に分けて開かれ、第一回は、名古屋YWCAの矢島清香先生を招き、約20名が受講しました。先生は外国生活の経験を持ち、YWCAの他に

日本語教室で外国の子ども達に日本語を教えています。

参加者は、日本語を教えてみたいと思っている人、現在スクールに通っている人、既に日本語を教えている人などが受講し、「日本語を通じて外国人と交流しよう」をテーマに学びました。

セミナーは、参加者が各テーブルでお互いの名前や職業、現在の活動などを自己紹介するアイスブレイクから始まりました。

最近の日本語教室では、先生主導の一方向的な詰め込み型でなく、コミュニケーションや会話重視の教え方が多くなってきていて、実際の場に近い形で学びます。サポーターと受講者が共に考え、お互いの会話を通じて学習します。そのツールとして、スマホ、ホワイトボード、地図、実物などを用い、状況によってジェスチャーも交えます。後で振り返ることも大切で、そこから新たな学びも得られます。



セミナー後半は、各テーブルで日本語教室の支援者と受講者役に分かれ、矢島先生から渡された役割カードを演じ、言葉を使わずに意思を通じさせる練習をしました。

実際に言葉が通じない国や習慣の異なる人に、何かを伝えることの難しさを学びました。大切なことは、「伝えたいことが伝わればいい」と、矢島先生からアドバイスがありました。

第二回セミナーは前回と同じ、名古屋YWCAから和田貴子先生を招いて開かれました。先生は日本語講師育成や、地域の初期

共生のための日本語教育に携わっています。

今回は、「日本語を通じて外国人と交流しよう」、「素材」から考える地域にほんごの人と場」をテーマに学びました。



各テーブル全員で、日本語の学習でどんな教材があるかを考えてみました。地域日本語学習の場でどんなものが役立つのか、みなさんの経験などを交えて考え発表しました。例えば、食材や料理方法、地域の回覧板などの活用がよいのでは等々、いろいろ意見が出されました。

英語圏でない海外へ旅行した人から、トイレで男女のマークも分からず文字も読めず、どちらに入ればよいかと、とても困ったそうです。この経験から、地域の生活の基本的なことが必要とされるのではないかと、自身の経験からの意見がありました。

このように地域日本語の場での素材は、リアルなものが素材になります。自分の身の回りに、素材として活用できる事柄は沢山あることや、その他いろいろなことを学びました。

一宮市には、大人向けの「日本語ひろば」と、児童・生徒対象の「日本語ひろばジュニア」が開かれています。このひろばを見学してみることもお勧めです。日本語を教えてみたいと思っている、あなたへのファーストステップになるかも知れません。

(ドリアン)

English Free Talk @NIGHT

オリナス一宮 12月15日

English Free Talkの開催は今年度、原則毎月1回金曜日の午後であったが、12月は金曜日の夜に実施。これは昼間働いている人や学生は参加しなくてもできないので、次年度はどの日時がより良いか判断するために試行の一環として実施したものの。開庁時間外となるので、場所は市役所ではなくオリナス一宮の1階ホールで実施。参加人数はこれまで20名弱であったところ、今回40名以上のたくさんの人が参加しました。

1席3～5名に分かれ、事前に知らされていたテーマを含めて自由な会話を楽しみました。参加者の感想としては「すごく楽しかった。みんな和やかで喋りやすいし、この時間帯だと学生も参加しやすいのでとても良い。」「インスタで知って来てみた。みんな楽しそうに会話していて、無料で参加できるのでとても良いと思う。スケジュールが合えば、ぜひまた来てみたい。」など、とても好評でした。



開催時間は午後6～7時の1時間で、30分経ったところで席替えを実施。参加者からは「席替えにより、いろいろな人と会話することができてとても良かった。」との感想がありました。また、席替えは同席の人でじゃんけんし、負けた人が移動するという方法だったので、席の移動もゲームみたいに楽しんでいました。



その反面、オリナス一宮のホールは音が響きやすく周りの音がうるさいので、改善の余地があるなどの課題も出てきました。開催日時については、逆に夜は参加できないという人もいますので、1月は土曜日の午後に試行予定。

今回は、小学生や高校生、今年度市役所入所のフレッシュ職員、そして2名のネイティブスピーカーも参加してくれたおかげで場をより活性化でき、とても良い企画だったと感じました。

(katsu)

ウルフドッグス名古屋ホームタウンイベント「ウルドタウン一宮DAY」

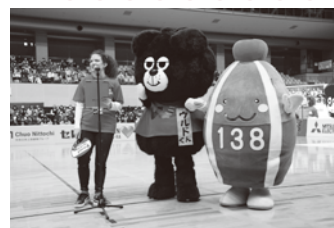
一宮市総合体育館 11月25日/26日

一宮市が活動を支援する男子バレーボールチーム「ウルフドッグス名古屋」の試合に合わせてホームタウンイベントが開催され、一宮市国際交流協会がブース出展をしました。ブースではベネチアンマスクのデコレーション、イタリア語の応援うちわ作成をすることができるクラフト体験コーナー、世界の民族衣装を体験できるコーナーなどを多くの人が楽しみました。ブースにはウルフドッグス名古屋のマスコットキャラク

ターウルドくんも訪れ、ウルドくんも国際交流員のキアラさんとうちわを作りました。

また、26日には国際交流員のキアラさんが始球式に参加しました。いちみんとウルドくんの応援もありサーブは成功。試合では、熱狂的な声援の中ウルフドッグス名古屋が勝利しました。

ウルフドッグス名古屋のファンの方々が一宮市国際交流協会をより知っていただく2日間となりました。



おとなりさん

今回のおとなりさんは、イギリスのイングランド出身のホールデン・エラさんです。イギリスは1つの国という認識を持っている人もいかもしれませんが、正式な国名は“United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland”と言い、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランドの4つの国から構成された国になります。

エラさんはイギリスの美術大学を卒業後、グラフィックデザイナーの仕事をしていました。その後、イタリアで英語の先生をした後、イギリスに戻り2年前に岐阜県大垣市に来ました。

現在は一宮市に住んでいて、大垣市の小学校で毎日子ども達に英語を教えています。また、名古屋市でも絵の先生をしていて、鉛筆やiPadを使った絵を教えているそうです。

昨年8月から一宮市国際交流協会主催の

日本語ひろばに通っていて、楽しいと言っていました。他にも本やYouTubeで日本語の勉強をしているそうです。来日するまでは、日本語の勉強をしたことがなかったと聞き驚くほど上手に日本語を話されていたのが印象的でした。

趣味は友達と旅行に行くことで、神戸や東京や北海道などに行ったことがあるそうです。また、日本の伝統工芸品が好きで美濃和紙や習字などに興味があるそうです。日本食にも挑戦中とのことでした。

エラさんの日本での滞在が、よりよいものであることを願っています。(ぼん)



ia information

～外国人向け日本語教室のご案内～

大人向け

日本語ひろばいちのみや

▼日 時/毎週日曜日(第3日曜日・年末年始等を除く) 10:00～12:15

▼場 所/向山公民館

▼申込み/不要

大人向け

日本語ひろばびさい

▼日 時/毎週日曜日(第1・5日曜日・年末年始等を除く) 14:00～15:45

▼場 所/三条つどの里

▼申込み/不要

小・中学生向け

日本語ひろばジュニア

▼日 時/毎週土曜日(祝日・年末年始等を除く) 10:00～11:30

▼場 所/神山公民館

▼申込み/一宮市国際交流協会までご連絡ください。

参加
無料

詳しい情報は
下記の二次元
バーコードか
らご覧いただけ
ます。



5月から
(開始日未定)
木曜日の夕方
にも教室を
開催します!

*iaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。詳しくはia事務局までお問い合わせください。



地球あっち こっち

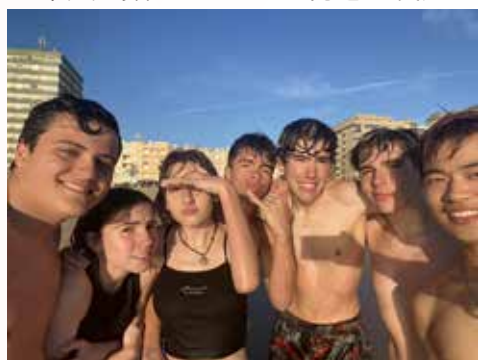


高3でスペインに留学

2023年7月帰国 林 真大さん

高校入学と同時にコロナ禍で休校を余儀なくされた私は、失望で時間を持て余してしまい、やっとの思いで立ち直るきっかけが海外でした。中学生で行ったアメリカは100%ホスト家族と楽しみました。あの自分を取り戻したいと1年間の留学を決めたのです。行先は南スペインのカディス。新たな大航海。お世話になるホスト家族の立場を考えると、信頼と感謝を徹底しようと考えました。『ありがとう』と言い続ける、ホスト家族との約束を守る。そのうち日本では普段『すみません』を多用していることに気づきました。『すみません』を『ありがとう』へ変えたら日本はもっと明るくなると思います。

高校留学の最大の課題は学校生活、友達作り。まずクラスに行くと驚きました。過半数が海外留学生。日本人も数名いました。現地の友達を作るにはクラス



を出て他の学年に話しかけ、慣れないスポーツでも関係なく参加して自分から話しかけました。これを日常にした結果、幅広い友達ができ

きたのです。学校が終わった後も現地の習慣サリール(仲間と長時間街を散策して遊ぶ)に多くの友達を誘いました。時には10キロ近く散策しました。週末の夜はサリールで町中が家族や若者、シニアであふれていました。

現地のスペイン人から学んだことは『今を楽しむ』ことです。スペイン人の根本にあるのは『今を最大限に楽しむ』ことだと感じました。日本人は常に何かの目標に向かって今を我慢している人が多いように感じます。しかしスペイン人はその逆です。昼寝がしたいから昼は働かない(シエスタ)、深夜は友達と遊び

たいから働かない(サリール)、自分の好きな仕事を自分の好きなように働く、そのため大半のスペイン人は1日に5~6時間しか働きません。それでも生きていける世界が広がっています。お金をためる人は少なく、常にお金が回っているのです。今を楽しむことは未来を大切にすることにつながります。



なぜならその未来が現在になるときは、それもまた今となり、常に今を大切に続け、全力で楽しむのです。私はそんなスペイン人の考えが好きです。そしてコロナ禍での失望も、留学生ばかりのクラスも自分を成長させてくれたのですから、今はすべての物事に感謝しています。



編集後記

この号が発行される頃にはいつものように桜の便りが届いているのだろうか。今までに経験したことのない近年の異常気象、想定をはるかに凌ぐ大きな自然災害、いまだに続く理不尽な国と国との争い。それらは多くの人の命を巻き込んでこの先何年間もその爪痕を残していくことだろう。私たちが望むものは、平凡な毎日、普通の日常…。それを手に入れるのがこんなにも難しかったのかと思えてならない日々が続いている。(you 都市)

発行：一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市役所本庁舎9階 観光交流課内)

- 一宮市の国際交流協会の中心となって活躍いただく親善ボランティアを随時募集しております。
- みなさんも親善ボランティアに参加しませんか?お気軽にお問い合わせください。
- *この「かけはし」も親善ボランティアにより取材・編集されています。
- ご意見・ご感想をお待ちしております。【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
- 当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iaa/】